

# 中高生が主人公の本

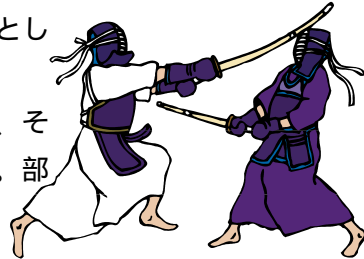
この春から新しい学校に入学された中高生のみなさん、学校には慣れてきましたか？今月は部活動モノを中心に中高生が主人公の本を集めてみました。

## 武士道シックスティーン

誉田哲也 / 著 文藝春秋 2007 F / ホ46 / 3

全国大会の決勝戦で負けた判定に納得いかない香織は、中学最後の大会として横浜市民大会に参加します。当然優勝するつもりでしたが、香織は無名の選手に負けてしまいます。勝ったのは日本舞踊を家庭の事情で諦め、「同じ和風ものだから」という理由で中学から剣道を始めた早苗でした。勝ち負けにこだわらない早苗と勝つことだけを考えてきた香織は正反対の性格ですが、同じ高校に進んだことで衝突しながらも二人はライバルとして成長していきます。

香織視点と早苗視点が交互に描かれていますが、それぞれの心理描写（とくに試合中）が魅力的です。部活動の厳しさ、楽しさを味わえる一冊です。



## 走れ！T校バスケット部

松崎洋 / 著 彩雲出版 2007 F / マ150 / 1

バスケットボールの名門高校に入学した陽一は、部内でのいじめが原因で学校をやめます。彼が新たに通い始めたT校のバスケットボール部は決して強いチームではありませんでしたが、チームの和を重んじる監督の下で楽しみながら一生懸命プレーしていました。陽一は周りの人たちに支えられてチームの中心的な選手になっていきます。

いじめ問題やチームメイトとの人間関係などについて考えさせられる一冊です。



## おっぱいバレー

水野宗徳 / 著 リンダパブリッシャーズ 2006 F / ミ160 / 1

育夫は三ヶ崎中の男子バレー部キャプテンです。彼はバレー部に入ればモテると思っていました。理由は小学生の頃にクラスの女子たちが全日本男子バレーの選手にキャーキャー言っていたから。しかし、男子バレー部は問題のある先輩たちの影響で、彼がキャプテンになった今でも『キモ部』とバカにされていました。そこに臨時採用の美人顧問がやってきます。彼らは先生と「試合に勝ったらおっぱいを見せる」という冗談のような約束をし、必死な練習の末に別人のようになっていきます。やがて、その約束がばれてしまい、問題になるのですが……。

手に取りにくいタイトルかもしれませんが、実話が元になっている爽やかなスポーツ小説です。



## イレギュラー

三羽省吾 / 著 角川書店 2006 F / ミ145 / 2

蜷谷村では半年前の水害が原因で仮設住宅での生活をしています。



市営グラウンドも近隣の学校のグラウンドも借りることができず、蜷高野球部は活動休止状態。素質はあるけれど、練習に身が入らないピッチャーのコーキは毎日ぶらぶらするばかり。そんな蜷高に手を差し伸べたのは、市内にある強豪野球部のK高でした。春の選抜以降は伸び悩み、夏の甲子園には惜しくも届かなかったK高野球部でしたが、蜷高との合同練習はいい刺激になっていきます。

甲子園を目指し、試合に勝ち進んでいくパターンの展開ではないところが特徴です。災害後の生活についての描写も印象的です。

## 彩恋

飯塚健 / 著 小学館 2007 F / イ279 / 1

不良仲間から抜けるために握った拳を振り回したココ。  
遠距離恋愛中の彼に振られた直後に妊娠のわかったナツ。  
いじめから逃げるようにしてオカンの故郷に引っ越したマリネ。

それぞれの境遇と戦いながらも仲良し  
3人組は絆を深めていきます。3人を取り  
巻く人々の想いも綴った、女子高校生  
たちの日常生活。

なにげない日々を描いたものだからこ  
そ共感できる部分の多い作品です。

あなたは誰にいちばん共感しますか。



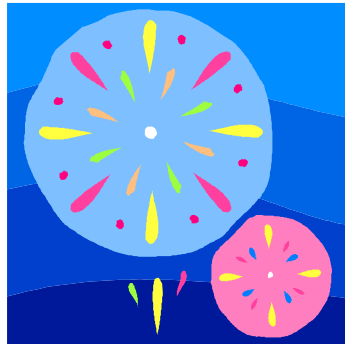
## ええじゃないか17歳のチャレンジ

宗田理 / 著 角川書店 2005 F / ソ17 / 3

幕末の日本を踊り狂わせた“ええじゃないか騒動”

その発祥の地、豊橋市にある悠悠館高校生宅に謎のお札が届きます。小夜子はこれをきっかけに、幕末のええじゃないかブームをもう一度甦らせることを思いつきます。他校や商店街、市を巻き込んだライブ、花火、踊りの祭りを計画しますが、それを邪魔する謎の陰が・  
・。果たして計画は成功するのでしょうか。

ちょっとした歴史の勉強にもなる？  
ドキドキの青春ストーリー。あなた  
もなにかにチャレンジしてみては？



## 祈祷師の娘

中脇初枝 / 作 福音館書店 2004 9 13 / ナカワ

中学一年生の春永の家は代々お祓いをする祈祷師です。お父さんにもお母さんにもお姉ちゃんにもその力があるのに春永だけにはありません。

「ずっと祈祷師になりたかったけど、神様が選んだのは和花ちゃんでした。わたしはばけものになりたかった」

一人だけ力がないゆえに感じる疎外感に苦しみながらも、春永が出した答えとは。

家族愛を中心に、初恋や友情をおりませた中学生の自立と成長の物語です。



この他にも青少年コーナー展示スペースに多数用意してあります。